



びっぴだより No.1 2019.4.9

びっぴは13年目の春を迎えました。一期生の松ちゃんも15歳に。この春 ボランティアスタッフとして びっぴに戻ってきました。進学する高校の新学期開始が夏からのため実現しました。時が流れてまたびっぴの森で過ごす。びっぴの小さい人たちと関わる。びっぴが卒園生たちの「母港」になるようにと。自分たちの森にしたいが、こんな形が卒園生が戻ってくるとは 思ってもいませんでしたので 感無量です。

もう一つ 感無量と言えば。この春の 軽井沢中学校の入学式で。在校生代表挨拶を びっぴ一期生の Oくん。 新入生代表挨拶を びっぴ三期生の Kくん。 想像しただけで ソクゾクしてしまいました。 Oくんは どんぐりさんの時の一年間。 私の洋服を 握って 離さない。私がトイレの間も トイレの中で 絡まれました。 後にも先にも トイレで入ったのは Oくんだけ。 2歳児といえ。 男の子なのに 私も 刺すかきかたの 思い 出します。 Oくんは 軽井沢中学校の 生徒会会長を 立派に 努めています。

Kくんは。 いくつかの びっぴだよりに 載せた Kくんです。 おおぐんさんの時 トイレに座りながら 「どうして おおぐんは。 びっぴを 作るの？ と思ったの？」と 聞いてきました。 どきどきしながら 「子どもたちが ひとり遊びする場所が あたらしい。 おおぐんさんが ほんとに できる場所が あたらしい と思ったの」 すると Kくんは 「いいもの 作ったね…」と 満更い表情で 話しました。 Kくんは。 半年前。 6年生の 秋。 知るか。 彼の小学校を 訪ねた。 私を見つると。 「おおぐん」と。 ほんのり前を 抱きついて きました。 Kくんも 小学校の 児童会会長を 楽しんで 務めました。

中学2年生になった Hちゃんや Eくんも。 堂々と 自分なりに ことを 続けて います。 Aちゃんや Dくんも この春 中学生に になりました。 Aちゃん。 真っ直ぐで 優しい。 失敗を 恐れない 好奇心 いっぱいの Dくん。 ほんの

どきどきする子どもだけ。 周りにいる人たちと何が違うかといったら。 相手を 理解しようとする 想像力と。 きつとまぐいと思える 力も あります。

2歳からずっと 見守ってきたことの 喜びと 関係の 充実感を 覚える。 ほどよい 感じの 距離感が 私と 子どもたち 間に 存在し。 心地好い になっています。 対等な 関係で 共に 関わる 日々から。 私は 「子どもを 変えるの だけ なく。 大人の見方を変えて みる」と 学びました。 そして 大人も 「助け」 「困ってる」 「失敗しちゃった」 を 素直に 出して いいんだと 気付 きました。 お互いの 素を出しながら は びっぴの 生活にも 続いています。

今年度も 子どもスタッフとして きつと たくさんの 卒園生たちが 帰って くるでしょう。 みんな 強引切っ て びっぴの 小さい 人たちに 関わって くれる。 園うさぎは。 編み物に 手をつけて。 みんなで 大きくなって。 びっぴも。 今年度から。 月2回 土曜日の びっぴの 森で 活動し。 新い スタートです。

一つ 大きくなることを 待ちわびて いた おおぐんさん。 まつりさん。 一つ 大きくなって おめでとう！ おおぐんさん。 おもろいことを いろいろ 計画 しましたね。

どんぐりさん。 びっぴの 仲間になって くれて ありがとう。 きつと おおぐんや おおぐんが 助け くれます。 心配 して くれ。 おおぐんさんと 遊びながら。 中々 大きくなる ね。

たくさんの 途中入園の 皆さん。 戸惑う ことが たくさん ある と思う けれど。 いろいろ 抱きしめるよ。 びっぴはね。 いろいろ 泣いてもいいし。 失敗も 笑って 何と かわらね。 守る 居場所が 見つかる ように。 おおぐん がんばる ね。

保護者の 皆さま。 今年度も 子どもたちを 真ん中に。 一緒に 笑い。 悩み。 困り。 手を 握り。 共に 歩きましょう。

途中入園の 保護者の 皆さま。 びっぴの 家族に 関わって くれて ありがとう。 短い 在園期間 の方も いろいろ ありがとうが びっぴで。 一人一人が 生きる 力を 育て 大切な 時と 刻を 共有 してくださいね。 いろいろ いろいろ おおぐん いたしましょうね。

2019年度が。 温かい 嬉しい 一年に しましょう。 : 真弓